



## 土肥包括支援センター 若山様 鈴木様 講演会

第1回TOIゼミでは、土肥地域包括支援センターの方々を講師にお招きし、土肥地区の少子高齢化の現状について学びました。講義では、土肥地区の高齢化率が52.25%に達していることや、少ない現役世代で高齢者を支える「肩車型社会」が進んでいることを知りました。

また、そのような社会の中では、地域同士のつながりや助け合いがこれまで以上に大切になることも教えていただきました。特に、「普段から顔見知りになっておくことが、防災や安心につながる」というお話が印象に残りました。

さらに、NPOきずなの活動についても紹介していただきました。買い物支援やごみ出し、見守り、外出支援など、地域の方々が支え合いながら暮らしを支えていることを知り、自分たち高校生も地域を支える一員になれると感じました。

今回の学びを通して、地域で安心して暮らし続けるためには、人と人との“縁”や日頃の関わりが大切であることを改めて感じました。そして、土肥地区を、日本全体がこれから直面していく課題を先取りしている「日本の未来都市」と捉え、この地域で少子高齢化の課題について探究していくことの意義を実感しました。



## 生徒のコメント

- 生まれ育った土地なのでなくならないでほしいと思います。観光で訪れるだけでなく住みたいと思ってもらえるところにしたいと思いました。(3年 勝呂)
- 土肥に若い人や人口を増やすために土肥をPRしたりネットにどんな活動をしているのかを載せていきたい。(3年 福室)
- 土肥は「少子高齢化の最先端」という言葉が印象に残った。少子高齢化を止めることはできないけど、対策できることは沢山あるから、できることをやっていき、よりよい地域にしていきたいと思いました。(3年 宮本)
- 若者と高齢者の交流や、若者が集う会など、土肥分校主催でレクリエーションをやってほしいなと思いました。(2年 早川)
- 「きずな」や「地域包括支援センター」が地域のために行っている活動を知ることができました。私も土肥に住む身として手伝いたいなと思います。(1年 田沼)
- 高齢者しかいない地区があることや半数以上が高齢者の地区の多さに驚いた。介護の手が足りているか、若い人がどうしたら出ていかないかなど、難しい課題も多くあるので、少しずつ解決できればと思った。(3年 杉浦)
- 最初は私にできることはないと思っていたが、今回の講義を聞いてみて、私たちが高校生だからこそできることがあると思いました。(2年 遠藤)
- 土肥だけでなく日本全体が高齢社会になっていることに気づきました。地域全体をみんなで支える必要性を感じました。(1年 高橋)
- 土肥の今を知れてよかったです。地域の人に挨拶をするなど、地域の人とかかわりを持っていきたいと思っています。(1年 藤井)

## 伊豆市役所危機管理課 山田様 講演会

第2回TOIゼミでは、伊豆市危機管理課の山田様を講師にお招きし、伊豆市の防災対策と高校生の役割について学びました。講義では、土肥地区では南海トラフ地震による震度6強の揺れや、高さ10メートルを超える津波が最短6分で到達する想定であることを知り、改めて防災を「自分ごと」として考える必要性を感じました。

また、「災害は必ず起こる」という前提で、どのように命を守る行動をとるかが重要であり、通学中に被災した場合には、家や学校に戻るのではなく、その場で最も安全な場所へ避難することが大切だと学びました。

さらに、伊豆市では津波避難タワーや危機管理センターの整備、防災情報の発信体制の強化など、地域全体で防災に取り組んでいることも知りました。特に印象に残ったのは、「テラッセオレンジ」が地域住民との話し合いを重ねながら整備された施設であるというお話です。地域の人々が大切にしている松林をできるだけ残し、土肥の景観を守ることも意識しながら、防災と観光を両立させた施設づくりが行われていることを学びました。

また、高校生も地域を支える存在であり、避難所運営の手伝いや、小さい子どもの見守り、高齢者の避難支援など、高校生だからこそできる役割があることも学びました。

今回の学びを通して、防災は行政だけでなく、地域住民や学校が連携して取り組むことが大切であり、地域の思いや文化を大切にしながら、防災について考えていくことの重要性を実感しました。



### 学校は「地域の命の守り場」

- ・グラウンド：緊急・災害のヘリポート
- ・体育館：犠牲者の遺体を守る避難場所
- ・校中庭園：地域の避難者・子供たちの避難所・避難場
- ・広い敷地の活用  
土肥分校の広大な敷地は、災害時の避難場所として多くの人を収容可能です。



伊豆日日新聞にも掲載されました！

## 生徒のコメント

- 災害がおきた場合どのような被害がどれくらいあるのか再確認したいと思いました。(3年 辻)
- 災害中はみんな不安なので子供たちと遊んだり不安を少しでもなくしてあげたいと思いました。(3年 勝呂)
- 自分の命が一番だけど、高齢者など困っている人がいたら自分ができる範囲で手伝いたいと思いました。(3年 山田)
- 通学途中で被災した時にあらかじめどこに避難するか確認しておきたいと思いました。(2年 市田)
- 学校が避難場所になったとき、自分たちは何をしたらよいかわからないので、それを想定した避難訓練を試してみたいと思いました。(2年 鈴木)
- 土肥は高齢者が多いということを知っていたので、大きな災害があったら大きな被害を受けるのではないかと考えました。若い人で土肥を支えたいと思いました。(1年 川津)
- 話を聞いて、伊豆市は防災に力を入れていていいなと思いました。テラッセを建てる際には地域の人と話して色々決めていくことを聞き、安心しました。(1年 市川)
- 地域のことをよく知って、災害がいつ起きても大丈夫にしたいと思いました。(1年 飯田)

「TOIゼミ」とは、伊豆総合高校土肥分校で行われている「総合的な探究の時間」です。

少子高齢化や防災、地域活性化など、土肥地区が抱える地域課題について、地域の方々や行政、団体と連携しながら学び、自分たちにできることを考え、実践していく活動です。

本広報誌「縁（えにし）」では、TOIゼミの活動を発信していきます。地域の皆様には、ぜひ生徒たちの活動を温かく見守っていただければ幸いです。